

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3610310108		
法人名	医療法人 道志社		
事業所名	グループホーム小松島		
所在地	徳島県小松島市田浦町近里84-2		
自己評価作成日	平成28年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成28年10月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣接している母体の小松島病院との医療連携体制により、夜間帯の急変や転倒事故などの緊急時には医療スタッフの協力が得られる。内線電話による状況報告や、指示を受ける事で不安の軽減になり、本人様や家族様に安心して頂ける。認知症に対する理解と、地域の方々を開かれた施設を目指す目的で、毎月第4水曜日に「認知症カフェ」を開催しています。社会福祉協議会の協力もあり、相談事や認知症のご家族の方々、地域の皆様と相互支援できたらと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、同一法人の運営する医療機関に併設しており、緊急時の対応なども含めた様々な面で連携体制が整っている。管理者と職員は、理念の“家庭的な温もりや、優しさをもって家族のように暮らすこと”を支援の基本と捉えており、過ごしやすい雰囲気づくりなどを工夫している。職員は、利用者一人ひとりの生活歴や嗜好を把握しており、その人らしい暮らしができるよう心がけている。また、身だしなみやレクリエーションなどの場面においても、利用者一人ひとりが生き生きと取り組むことができるよう支援している。事業所として“認知症カフェ”を立ち上げるなど、地域への啓蒙活動にも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭の温もりと優しさ、そして地域と共に」の理念を念頭に置き地域との係わりを大切にしながら、穏やかな日々を過ごすことが出来るように見守り支援しています。	理念を事業所内に掲示している。全職員で理念に基づくケアに努めている。管理者は、日頃の利用者への支援を通じて、職員への意識づけを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保・幼・小学校の運動会や、夏祭り・春／秋文化祭に参加・招待して頂き、交流を深めています。毎年七夕には、幼稚園児の慰問があり利用者様と一緒に、笹飾りをします。	管理者と職員で地域の行事等の情報を得るよう努めている。幼稚園や小学校との交流もある。利用者や職員で、事業所周辺の清掃活動を行っており、地域の一員として活動している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症への理解と、地域に開かれた施設を目指すために 今年の6月から毎月1回、認知症カフェを開催し、地域住民の方々と交流を深めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当ホームでは、偶数月に利用者様のご家族や地域ボランティアの方を含めたメンバーで、運営推進会議を開催し他施設や市政の協力を得、意見交換や、サービス及び資質の向上に努めています。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用者や家族、市担当者、地域包括支援センター職員の出席を得ている。会議で出された意見や課題は、全職員に議事録を回覧するなどして、情報の共有を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護福祉課や社会福祉協議会の担当者の方々と、連絡を密に取りながら相談したり、アドバイスを頂いたりして協力を得ています。	日頃から、市担当者や包括支援センターの担当者と顔の見える関係作りを行っており、相談しあうことのできる関係がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束(車椅子の安全ベルト・弄便対策のジャンプスーツの着用)などしていません。1F玄関の施錠は幾度も開錠に向けて努力しましたが、離施設行為があり色々検討した結果、利用者様の安全を第一に考え施錠している。	建物の構造上、安全面の確保が難しい時間帯があるため、時間を定めて玄関の施錠を行っている。職員間で話し合い、開錠の時間を多く保つよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会に出来るだけ参加し、利用者の皆様やご家族様に安心して頂けるように努めています。身体的には入浴時などに全身の観察をして傷や内出血など発見した場合には速やかに全体に申し送り原因の究明しています。言葉遣いや態度にも、配慮するように心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見や支援が必要と思われる利用者様に対して職員間で話し合い、本人様のへの説明や意思確認など、支援センターや福祉協議会に相談したり協力を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約前に自宅(病院)訪問し本人様や家族様と面談するようにして本人様や家族様の不安の軽減に努めています。報酬加算や料金の変動がある場合には事前に書面などのお知らせや、説明をしご理解を頂くように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には入居者様・ご家族様にも出席して頂き、要望や意見など伝えて頂く様にしています。又、面会時などに出来るだけお話するように心掛けています。	職員は、利用者に声かけを行うなどして、希望を表出しやすい雰囲気づくりを行っている。本人の意向や希望を把握するよう努めている。家族等の来訪時には、利用者の暮らし方を伝えるなどして意見や意向を聞いている。出された意見等は、職員間で共有し支援に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で職員の意見や提案に耳を傾けるように努めている。職員の不安や、健康面、家庭の事情などに合わせ、勤務体制など考慮出来る事はして、業務の改善に努めている。	管理者と職員で、事業所の運営面について話し合っている。相互に自由に話し合うことのできる関係を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己評価や、他部署評価があります。勤務時間や内容についても随時相談を受け、対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内外の勉強会や研修に出来るだけ参加している。個々の性格や考え方・力量などを把握するように心掛け常に助け合う精神を大切にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所や、関連施設の見学など相互訪問し交流を図り情報収集しています。他施設のソーシャルワーカーや、ケア・マネージャー随時連絡相談しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談し、本人様及び家族様・ケア・マネからのアセスメントを取るようになっている。レクリエーションの時間帯に見学に来て頂いたりして、少しでも不安を軽減出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所が決まるまで頑張ってもらったご家族様に労いの言葉をかける様に心掛けている。又、家族から 離れて暮らす本人様の気持ちを受け止めていただき、GHの暮らしに少しでも早くなじんでもらえるように細やかな協力をお願いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所後も面会時などにお話を傾聴し、家族様の不安や言いにくい要望などに気付ける要に努めています。本人様には、GHでの生活に安心して頂けるように充分な声掛けとスキンシップを心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、長い時間を一緒に過ごす意識を持ち、本人様の負担にならない程度のお手伝いなどを通じ「ありがとう」「助かります」などの感謝の気持ちを言葉に出し伝えるようになっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所した事により家族との関係が希薄にならないように連絡・報告(良い事も悪い事も)積極的にしている。職員も家族様と相互に支えあえるように協力をお願いしている。個別に担当者を設け顔写真なども掲示し、相談しやすい様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間の制限はせず、いつでも会いにこられるようにしている。面会時に家族様と外出したり(家に帰る)外泊なども推進している。又、親族の入院お見舞いなども出来るだけ行なうようにしている。	事業所では、利用者の友人や知人、親戚などが継続的に来訪してもらえるようにしている。家族の協力を得て、教会や法事、墓参りなどの外出ができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレクリエーションの席も固定せず、その時々での雰囲気や相性などで変更出来るだけ和やかに過せる様に工夫している。又、お元気な利用者様に、寝たきりの利用者様のお見舞いや声掛けなどを一緒にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などによりGHでの生活が困難になった場合などお見舞いや家族様への電話での様子伺いを入れて経過見守りしています。転居なつた場合は本人様の出来るだけ詳しい情報を転居先に提供しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ本人様の意向を傾聴し希望に添ったプランを提供出来るように心掛けていますが困難な場合、家族様や職員で話し合い必要時にはDrやリハビリスタッフに相談しています。	職員は、利用者一人ひとりとの関わりを通じて、言葉や表情、仕草などから、本人の意向をくみ取るよう努めている。意志の表出が困難な方には、家族や関係者から話しを聞くなどしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所までの生活歴や経緯を理解し、生活環境が変わった事への不安を軽減出来るように日々の話の中での不満や心配事に気付ける様努めています。情報など職員間で申し送っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックしています。いつもと違う行動や言動に注意し見守り、職員間で情報を共有しながら、その日の状態に合わせ支援していくように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画者及び職員全体で、利用者や家族様のニーズを日々の会話の中などから収集・共有しプランに取り入れるようにしている。食事形態など体調や状態に合わせてDrに相談しながら臨機応変に変更していく。	本人や家族の意向のほか、職員や関係者間で気づき、意見などを出し合って、利用者の意向に応じた介護計画書を作成している。全職員で利用者一人ひとりの介護計画を共有しており、目標を意識しつつ支援を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録や体調管理のためのバイタル水分表・日誌でその時々への対応や状態の把握をし職員間で情報の共有をしながら日々のケアに活かし実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望時の買い物支援や外部病院への受診などご家族の状況に応じ支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保・幼・小学校の運動会や、夏祭り・春／秋文化祭に参加、招待して頂き交流を深めています。又、幼稚園児の七夕飾りの慰問も毎年行なっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人様の状態に合わせて、家族様と協力しながら、かかりつけ病院受診(精神科・皮膚科・婦人科)等付き添いなど支援しています。	契約時に、本人や家族に希望するかかりつけ医を確認している。協力医療機関を主治医とする方もいる。専門科などの受診時には、職員が同行の支援を行うこともある。受診結果を家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	27年の1月より、毎週金曜日(2時間)訪問看護を導入し、訪問看護師による健康管理や相談・ケアの指導を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院などの場合、不安や極度のストレスを少しでも軽減するように定期的なお見舞いや転医時に付き添うようにしています。又、Drからの説明時などは、出来るだけご家族様と同席させて頂いています。状態に合わせて、医療機関と相談し、短期入院となる様に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	機会があるごとに、重度化された場合の希望などを聞き取り、当ホームでのお世話のあり方を説明し、理解と同意を求めています。家族様と話し合い協力体制を構築しながら看取りのケアを実践しています。	事業所では、終末期等の支援に関する指針を定めている。重度化や終末期のあり方について、本人や家族と話し合うなどして方針を共有している。協力医療機関の協力を得て看取りを実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や、転倒事故の発生時には母体の医療病棟との連携や協力により迅速に対応しています。日頃から、報告や相談をして入居者様の状態を伝えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練時には入居者様も参加して頂き実際の対応時間や整備不良など不都合を明確化し、改善するように努めています。	事業所で避難訓練を実施しており、避難誘導や安全確保を迅速に行うことができるよう確認している。隣接の事業所と協力体制を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や行動パターンを把握して声掛けするように努めている。不穏症状や暴言・介護抵抗などがある入居者様に対しては、常にスキンシップなどを心がけ根気強く対応しています。	職員は、利用者一人ひとりの気持ちを大切に捉えた支援に努めている。利用者の尊厳やプライバシーを尊重したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、何事も本人にどうしたいか？聞き返すように努めている。認知面の低下が著しい方や、発語の少ない方に対しては、顔の表情や、うなずきなどのしぐさで把握するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活して来られたペースが違う方の共同生活なので個々の希望を叶える事は困難ですが、入浴やおやつの時間など気分の乗らない時などは臨機応変に変更し、出来るだけ意向に添うように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月の移動美容室の利用。出来ない方は職員がカットをします。毎日の洋服選びや時々お化粧品もします。こまめな爪きりや毛剃りなど心掛けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立表を掲示しています。野菜等の皮むきや筋とりなど出来る事をお手伝いして頂きます。ミキサー食の方には、彩りや味付けを工夫し、食欲の減退に繋がらないように努めています。	事業所では利用者一人ひとりの嗜好を把握している。管理栄養士がたてた献立を参考にしつつ、利用者と職員で調理を行っている。季節感にも配慮した献立となっている。ミキサー食の場合には、食材や料理内容が分かるよう彩り良く盛り付けるなどの工夫を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自己にて水分補給が出来ない方や忘れる方がほとんどなので時間と量を決めて個々の水分量を確保しています。食事量の少ない方には、高カロリーゼリーやメイバランス・甘酒等で補います。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の口腔状態や能力に合わせて航空ケアの介助や見守りを支援しています。入歯や歯茎の不具合がある場合には、院内の歯科に受診しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを職員間で共有し、時間誘導や声掛けでトイレでの排泄を支援しています。便・尿意が不明瞭な方でも立位が出来る間はトイレでの排泄を心掛けています。	職員は、利用者一人ひとりの排泄のパターンを把握しており、声かけやさりげない誘導を行っている。トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつや食事にサツマイモやヨーグルト・バナナ等の繊維質を多く用いています。排泄表に記録し、頑固な便秘傾向の方には漢方薬や医師と相談し座薬や飲み薬で随時対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前中の比較的気分の落ち着いている時に入浴しています。外出や体調に合わせて変更したり、便失禁などの場合は随時シャワー浴などし、清潔を保ちます。	事業所では、利用者全員が少なくとも2日に1回は入浴することができるよう支援している。入浴を拒む方には、時間をおいて声かけをしたり、翌日の気分が変わったときに入浴を促したりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決めず周囲に迷惑や睡眠不測にならない程度は自由に過ごして頂いている。日中には出来るだけ起きて過ごして頂いているが、高齢の方などには短時間のお昼寝もしている。不眠状態が継続する時にはDrに相談し服薬することもある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が服薬内要を把握確認出来るように、処方箋をファイルし、追加や変更時には書面にて申し送る。新たな処方や変更時には、Drに経過観察の情報提供をして調整している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月初めの地域清掃やお花のお手入れ、洗濯物を畳んだり室内外で出来る作業を職員と一緒にやり、個々に応じたお手伝いをして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季のお花見や阿波踊り見物・ビックひな祭りなどの行事外出を支援している。長時間の外出が困難な方には、近隣の散歩や日向ぼっこなどを行っている。お墓参りなども家族様の協力を得支援している。	利用者と職員で地元の祭りや落語会、幼稚園・小学校の運動会などに参加している。同一法人の運営する事業所の行事に参加するなどして、利用者同士で交流をすることもある。職員は、利用者の心身の状態に応じて、周辺の散歩や玄関先でのラジオ体操、花の水やりなどを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は施設側ですが、一緒に買い物に出掛けたときや、美容室など利用される時に自分で支払ってもらい、お金が使える安心感を持って頂ける様に支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望時には随時電話や手紙の投函など支援しています。又、家族様の了解の下、携帯電話を持っておられる方もいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた室温を保つようにし、入居者様と一緒に創作した季節感のある飾りつけなどを行っています。	廊下やリビングなどの共用空間には、利用者と職員で作成した季節の作品を飾っている。リビングには、明るい日差しが差し込んできており、利用者が気持ち良くゆったりと過ごすことのできる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やリビングに2~3人掛けのソファを設置して、自由に過ごして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの居室はフローリング仕様ですが、畳の必要性や希望があれば臨機応変に対応します。全室冷暖房設備。入居時には本人様の馴染みのある物や、使い慣れた筆筒などを持ち込んで頂き安心できる居室作りを家族様にお願いしています。	事業所では、本人の使い慣れた家具や趣味の道具などを持ち込んでもらっている。利用者一人ひとりが自分に合った居室の環境づくりを行っている。利用者や家族と相談して、家具の配置や飾りつけを行うなど、一人ひとりが居心地良く過ごすことができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所やトイレなどを、大きな文字で解りやすく掲示しています。又ペーパーホルダーなど見えにくい部分にはテープなどで色付けし、見やすいように工夫しています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	2F	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭の温もりと優しさ、そして地域と共に」の理念を念頭に置いて家庭的な雰囲気を大切にし穏やかに過せる様に支援しています。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	他施設の文化祭や地域の運動会などに招待して頂き、交流を深めています。毎年七夕には地域の幼稚園児が慰問にきて一緒に七夕飾りを楽しんでいます。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症への理解や、地域に開かれた施設を目指し、1Fで開催している1回／月の認知症カフェに協力し、地域の方と一緒に合同レクリエーションをしています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、他の事業所の取り組みや現状の報告などを参考にして意見交換しています。福祉協議会や介護福祉課からの要望や意見を頂き、相談やアドバイス・指導を受けています。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談事や解らない事があった場合には、随時アドバイスや・指導を受けている。交流会などに参加している。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	車椅子の安全ベルトや弄便対策のジャンプスーツの着用はしていません。本人様に出来るだけ不快感が無い様に代用品を考えて工夫しています。階段の昇降口には安全の為、扉を設置し簡単な施錠をしています。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待は勿論のこと、言葉遣いや態度の虐待が、馴れ合いの延長線上に在る事を常に意識するように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人が必要と思われる入居者様には根気強く説明し、行政に相談したり、係わって頂いています。自立支援手帳の交付など家族様に情報提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	長期利用の方や家族様が県外在住の方が多いため面会時などに不安や、要望などを聴くように心掛けている。県外の方には、電話やお手紙など文書で説明とご理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、入居者様とご家族様にも出席され、要望や意見などを伝えて頂けるようお願いしています。気軽に話が出来るような雰囲気作りを心掛けています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場の声や意見にみみを傾けるように心掛けている。事業所の方針や決定事項などを伝え職員と共に考え、工夫し協力し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価や他部署評価があります。個々の職員の努力や勤務状況などを把握し、処遇改善や環境改善に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修や勉強会に参加し、質の向上を心掛けている。勤務時間内の研修など。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し、研修会に参加している。同列施設の運営推進会議に出席したり、見学や訪問などをして、情報交換や交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	2F	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に施設見学を勧めたり、本人様や家族様と面談し、充分にお話を伺うようにしている。レクリエーションの時間帯や、おやつに何度か見学に来て頂き、本人様の不安を軽減するようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所を決められるまで頑張ってもらえた家族様に労いの言葉をかける様にし、不安な本人様の受け止め、少しでも早くGHでの生活に馴染んで頂ける様に細やかな協力をお願いしています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所後も面会時などに、お話を傾聴し家族様やご本人の不安や言いにくい要望などに苦付けるように心掛けています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は長い時間を、同じ空間で過ごす意識を持ち負担にならない程度のお手伝いなどを通じ、「ありがとう」や「助かります」などの感謝の言葉を伝えるようにしています。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所する事により、家族との関係が希薄にならないように、密な連絡(良い事も悪い事も)積極的にしている。職員も家族様と相互に支えあえるように協力をお願いし、担当者を設け名札の下に顔写真を掲示している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様や知人の面会時には、飲み物を提供し和やかな雰囲気になる様に配慮している。又、家族様との外出や外泊なども推進している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や認知レベルにより、席なども臨機応変に対応しています。ハンドマッサージなどで、入居者同士が触れ合う機会なども設けています。			

自己	外部	項目	自己評価	2F	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や特養などに転居した場合には定期的に逢いに行くようにしている。又ご逝去された時には、お通夜や告別式に参列させて頂いています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の日々の言動の中に覆われた思いに気づけるように努めています。職員間で情報の共有し、時には家族様に協力を得ながら本人様の意向に添うようにしています。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のアセスメントを充分にし、担当ケアマネと連絡し情報を得ている。ご本人の好きだった事や、仕事の経歴などを中心に聞き取りしています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックや水分補給を行い、いつもと違う言動に注意しながら、見守っています。ADL介助時にも、個々の力量に合わせたお世話を心掛けています。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画者は、現場の声や、ご本人・家族の意向を充分に聞き取り、本人様の立場に立って、介護計画を作成するように努めています。食事形態などは、Drと相談しながら臨機応変に対応しています。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は、個別ケース記録、個別観察記録などで入居者様の心身状態を把握し、実践してよかった事、悪かった事などを職員間で共有しています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望時の買い物支援や、通院付き添いなど臨機応変に支援しています。帰宅願望の強い方には、近隣の散歩や家族様のご協力の下ドライブや外出など支援しています。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の婦人会ボランティア・傾聴ボランティアの協力を得ながら、お花見や運動会・文化祭などに参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様と相談・協力しながら、かかりつけ医への受診を支援しています。(歯科・皮膚科・精神科・眼科)必要時には、付き添いなどの支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	27年の1月より毎週金曜日(2時間)の訪問看護を導入し健康管理や相談・ケアの指導を受けています。小松島病院(内科・整形・歯科)への受診など重症化しない様に早めの受診をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急激な環境の変化による認知面の悪化や、ご本人や家族様の不安を軽減出来るように定期的なお見舞いなど心掛けています。状態に合わせて出来るだけ短期入院となる様に医療機関と相談するようになっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変・転倒(骨折)時には小松島病院との連携で迅速な対応をしています。重度化された場合には家族様・職員・Dr・管理者などで充分話し合い、当ホームでのお世話のあり方を説明し、協力と同意があれば看取りケアに取り組めます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間の急変や事故発生時には担当病棟へ、バイタル確認後連絡し、往診依頼するようになっています。各職員はカルテの場所など常に確認するようになっています。(日中は外来へ)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非難訓練時には入居者様も参加して頂き、実際の対応時間や整備不良や不都合などを明確化し改善するよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	2F	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や行動パターンの把握に努め、声掛けするように努めています。不穏症状や介護抵抗などがある入居者様には、常日頃からのスキンシップなどの触れ合いを心掛けています。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気持ちや言いたい事を十分に伝えられない方には視線を合わせ、背中に手を当るなど安心感を持って頂く様にしています。表情やしぐさなどで把握していきます。洋服を選んだり、飲み物のリクエストを聴くなど小さな自己決定を心掛けています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間以外は、個々がお部屋で編み物をされたり、リビングでテレビを見たり自由に過ごして頂いています。入浴も気分が乗らない時には翌日にするなど臨機応変に対応しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びや、毛剃りをしてお化粧する楽しみを支援しています。毎月第4土曜日に移動美容院の利用を支援しています。利用出来ない方は職員がカットしています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立を食道に掲示しています。食器洗い・お盆やテーブル拭きなどのお手伝いをして頂く。ミキサー食の方には彩りや味付けなどを工夫し、食欲の減退に繋がらない様に努めている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自己摂取できない方には時間と量を決め個々の水分摂取量を確保し、食事量の少ない方には高カロリー補助食品で補っています。食器やスプーンなどにも配慮し、できるだけ自己摂取出来るように支援しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、状態や個々の能力に合わせて介助や見守りをしています。入歯や歯茎などに不具合がある時には、歯科へ受診対応しています。			

自己	外部	項目	自己評価	2F	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている		個々の排泄パターンを把握し時間誘導や声掛けでトイレにて排泄してもらっています。尿便意が不明瞭でも立位が可能な限りトイレでの排泄介助をしています。				
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる		おやつや食事メニューには繊維質を多く取り入れるようにしています。頑固な便秘には、Drに相談し漢方薬やマグミットなどの処方に対応しています。				
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている		午前中の比較的気分の落ち着いた時間に入浴しています。外出や体調に合わせ臨機応変に変更したり、汚染時にはシャワー浴など随時施行し清潔を保ちます。				
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している		消灯時間は決めず周囲に迷惑が掛からない程度で過ごして頂きます。体調に合せお昼寝をされる方も居ます。不眠状態が継続されて不穏が続く場合には、Drに相談し対応しています。				
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		基本的にお薬の管理・服薬確認(介助)しています。処方内要はファイルして職員が把握出来るようにしています。				
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている		月初めの地域清掃や、洗濯物を畳んで頂いたり気分転換をかねた室内外の手伝いを職員と一緒にしています。				
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している		お花見・阿波踊り・運動会・お祭りなど行事時の外出や近隣施設の脳トレクラブに参加など積極的に外出の支援をしています。お墓参りや法事など、家族の協力の下しています。				

自己	外部	項目	自己評価	2F	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設側で行なっています。収支報告は毎月家族様に確認して頂き、報告しています。買い物介助時や新聞の集金など、出来るだけ本人様に支払って頂き、お金を使える安心感を持って頂けるようにしています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をかけたたり、手紙の投函などお手伝いしています。又、レクリエーションをかねて年賀状などを書く時もあります。家族様にも入所時にも対応のお願いをしています。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の写真や飾り付けで季節感を感じて頂ける様にしています。冬にはリビングの畳の場所にコタツを出して、くつろいでいただくこともあります。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人掛けのソファや2~3人掛けのソファを設置し、思い思いの場所で過ごして頂いています。定位置が安心される方には、同じ場所で過ごして頂き気持ちの安定を図っています。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた馴染みの深いタンズや時計などを持ち込んで頂き、安心して頂く様にしています。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所やトイレの場所が解りやすい様に大きな文字で明記してあります。トイレにはセンサーライトを設置しています。			